

今日のみことば

□ 11月13日(日) マタイ 19章

イエスは一人の青年が、罪人の自分を悟らず永遠のいのちについて問うてきたのを、厳しく警告を寄せられた。青年はその答えに失望してかえった。弟子たちは救いの難しさを痛感した

□ 11月14日(月) マタイ 20章

イエスは、弟子たちに、まもなく裏切られ、十字架につけられて死に、三日目によみがえると話された。それでも自分たちの名誉欲の話をする弟子たちにご自分が来られて目的を語る。

□ 11月15日(火) マタイ 21章

エルサレム入城を果たされたイエスは、二度目の宮きよめをされた。神礼拝の場である神の家を、商売の家として汚すことに対しての激しい怒りであった。

□ 11月16日(水) マタイ 22章

結婚式の客のたとえ：神の招きを拒否し続けてきた者を、神はもはや招かなくなる日が来る。神はほかの者を招かれる。メシヤを拒絶することによって選民の特権は失われる。

□ 11月17日(木) マタイ 23章

イエスは律法学者、パリサイ人の律法尊重主義を痛烈に批判を始められる。誤りの教えを伝え、人々が天国へ入るの妨げている。伝道に熱心な者はつねに正しい教えを持つべきです。

□ 11月18日(金) マタイ 24章

オリブの山から振り返りながら美しいエルサレムが残骸となる日の来ることを語り、警告される。弟子たちはいえず主が帰ってこられてもよい備えをしなければならない。

□ 11月19日(土) マタイ 25章

イエスは弟子たちにご自分が再び来られるまでの間、彼らが人々に優しく、神の愛を告げ知らせるようにと話された。主が与えられたタラントを用いて主と隣人に仕えるように。

ろ ぼ No. 1789
2016年 11月13日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ15:7

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

祈っていますか。今世界は本当にひどい状態にあります。SFの世界ではなく、本当に自分の手で破滅を招きかねない、危機的状況です。でもほとんどの人たちはそれを理解していません。どのようにしたら自分の安心安全が保たれるかに腐心しています。そのために身の回りで、阻害要因になるものを排除して、かえって身の安全を脅かしていることに気づかずにいる愚かさ、どうしようもなくなっています。

祈りは独白ではありません。一見そう見られているかも知れませんが、これは会話です。私たちは万物の主である神を信じています。そのお方と会話が出来ると特権を私たちは得ているのです。私たちはその特権をしっかりと用いて神に

働いていただくのです。会話はこちら側からの一方的な言葉だけでは成立しません。相手からの言葉もしっかりと聞くのでなければ会話は成立しないでしょう。私たちの祈りは、時として願ひ事に集中して、神の言葉を聞き忘れて、祈りが聞かれないと言っていることはないでしょうか。神も会話を願っておいでになるんです。私たちはこの大切なことを忘れて、祈りをしていないだろうか、心に聞いてみなければならぬのでしょうか。

「祈りは聴かれる」という本があります。祈りが聞かれた体験の証し集です。神が祈りに答えて下さった喜びが綴られています。皆さんがしっかりとみ言葉に聴いておられる様子をそ

ここに聞かせていただくとき、まさに神との対話が成立しているすてきな光景をそこに見させていただくのです。よく私たちは苦悩の極みにあるとき、とても祈りなど出来ない、と言うことがあります。ある人は「祈れないから祈るんだ」と言われました。神はそれを聞いておいでになるんです。み言葉に聴きながら祈るんです。そこが多くの人が「お祈り」と言っているものと違うのです。

神は祈りに必ず答えて下さいます。その答えは私の願いと違うことしばしばです。でも答えて下さいます。イエスは「あなた方のだれかが、パンを欲しがると自分の子どもに石を与えるだろうか。魚を欲しがっているのに、蛇を与えるだろうか。あなた方は悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして、あなた方の天の父は、求める者に良い物を下さるに違いない」(マタイ7:19)と言われるのです。私たちは信じて祈るのです。

今日、私たちは本当に真剣に祈らなければなりません。地球が破滅から救われるために祈らなければなりません。神の言葉を聞きながら祈らなければなりません。私たちの思い込みでの祈りは、決してよい答えをいただくことは出来ません。聴いて祈り、求めに従うことです。そこには思いをはるかに超えた神の祝福がそこには待っています。しっかり神と会話をさせていただくのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

詩篇 4 6 わたしは神

ルターの有名な讃美歌の基礎になっている詩篇です。ルターは迫り来る艱難の中で、この詩を歌うことによって神を信頼したと伝えられています。

今日も私たちには、地震の大きな恐れの中に、核爆発の脅威の中に恐れを抱きながら生きています。しかし詩人は、世界が終わろうとも恐れるものではないと言う。神は徹底的な破壊のさなかにあっても私の避け所である。一時的な避け所ではなく永遠の避け所であり、どのような状況であろうとも力を与えて下さるお方である。

戦争と破壊は免れないであろうが、神が最終的に勝利されることも避けられるものではない。その時、すべての者が全能の神の前に黙して立ちます。そうであるなら私たちが今、神と神の力と威厳とを敬いあがめて、静かにしていることは適切であり、静まって神をあがめる時間を持つことである。



Read God's Word.